

KT師重賞本命と見解

シルクロードステークス

<最終見解>

2019年以降、中京芝 1200m の古馬混合重賞は 7 レース。
勝ち馬の 5 頭。3 着内馬の 12 頭は父も母父も「サンデー系ではない」馬。

今年の該当馬は、
タイセイアベニール、ホープフルサイン、
ミッキーワイルド、カレンモエ。

中でもアメリカの速い血を持つ馬。スプリント G1 血統馬に注目。

本命はカレンモエ。

父も母父も非サンデー系。父も母も芝スプリント G1 を春秋制覇。

ジャンダルムの父キトウンズジョイは米国の名血で
同コース重賞に相性の良い米国型ノーザンダンサー系。

母はスプリント G1 春秋制覇のビリーヴ。
母父はダンチヒ。ダンチヒ×サンデーはクラシック G1 馬がないように、
米国型が強くなる配合。
サンデーの中距離要素が薄められた母は当レース向き。

ミッキーワイルドも父も母父も非サンデー系のロードカナロア産駒。
配合はカレンモエに近く、当レースの血統傾向にはドンピシャ。厩舎も同じ。

タイセイアベニールも父も母父も非サンデー系。父ダンチヒ系。

根岸ステークス

同レースの昨年の勝ち馬レッドルゼル。

2年前の勝ち馬モズアスコットは、いずれも芝要素の強い血統。
かつ、ストームキャット持ち。

本命はタガノビューティー。

芝 G1 でも 4 着。

母父スペシャルウィーク。

兄タガノブルグも同じく芝のストームキャット系と配合され、
勝ち星はすべて芝。芝指向の強い母。

相手は、ほぼソリストサンダー。

同じく母父スペシャルウィーク。

あとは、芝 G1 馬のタイムフライヤー。